ヘラルボニー　長谷虎紡績株式会社　麗澤瑞浪中学・高等学校
Reitaku Mizunami Junior and Senior High School

News Release

報道関係者各位

2022年10月25日

ヘラルボニー × 長谷虎紡績 × 麗澤瑞浪中学・高等学校

企業2社1校の連携によるD＆I推進
11月8日に探究学習イベントを開催

～「あなたは、あなたのままで、すばらしい！」～

株式会社ヘラルボニー（本社：岩手県盛岡市、代表取締役社長：松田 崇弥　代表取締役副社長：松田文登、「異彩を、放て。」をミッションに、障害のある作家のアートをさまざまな形で社会に届け「障害」のイメージ変容と新たな文化創造を目指す福祉実験ユニット、以下、ヘラルボニー）**と 長谷虎紡績株式会社**（本社：岐阜県羽島市、代表取締役社長：長谷 享治、創業明治20年、社会の変化に順応しつつ、どこにも真似のできないオリジナリティを追求する繊維メーカー、以下、長谷虎紡績）**、麗澤瑞浪中学・高等学校**（岐阜県瑞浪市、校長：藤田 知則、自立、感謝、思いやりの心を育む寮のある中高一貫の私立学校）**は、企業2社1校共同で「ダイバーシティ＆インクルージョン」の教育推進を目的としたイベント「あなたは、あなたのままで、すばらしい！」を開催します。**

写真：ヘラルボニーの契約作家・渡邊 昌貴氏（多夢多夢中山工房）の作品「ビル」をコモンホールのカーペットに起用

連携の背景と目的

この企業と学校の連携は、ヘラルボニーが展開する自社ブランドのプロダクトに長谷虎紡績のカーペットが採用されたことに始まります。

ヘラルボニー社員の安藤奈穂氏（広報担当）と長谷虎紡績の長谷享治氏（代表）のお二人が、共に麗澤瑞浪中学・高等学校の卒業生であったことをきっかけに、母校の生徒たちに何か役立つことはできないかと考えるに至りました。

そして、2022年3月より、企業2社1校協働プロジェクトで検討をはじめました。
「社会で求められている『Diversity & Inclusion』とは」「福祉と学校という分野について、学校教育の現場ではどのように考え、何に取り組むべきか」検討を重ねた結果、8月に第1弾として麗澤瑞浪の校舎内にアート・インテリアの設置が実現し、起用された6名の作家の紹介や、コンセプトである「あなたは、あなたのままで、すばらしい！」を広く全校生徒へ伝える取り組みが始まりました。

ヘラルボニー　長谷虎紡績株式会社　麗澤瑞浪中学・高等学校 Reitaku Mizunami Junior and Senior High School

写真左：コモンホールに設置されたアートパネルとカーペット、写真右：保健室前に設置されたアートパネルとカーペット

本取り組みのポイント

- 日本初　ヘラルボニーによるアート・インテリアの学校内への設置
  （ヘラルボニーと長谷虎紡績のコラボレーション）
- ダイバーシティ＆インクルージョンの推進（生徒に対する問い）を目的とした探究学習イベント

探究学習イベント

【日時】 2022年11月8日（火）16：00～17：40
【場所】 麗澤瑞浪中学・高等学校
　　1部　コモンホール、2部　会議室
【対象】 麗澤瑞浪中学・高等学校全校生徒
【内容】 1部　トークセッション
　　スピーカー：長谷虎紡績　長谷代表、ヘラルボニー　安藤氏、
　　モデレーター：麗澤瑞浪中学・高等学校　藤田校長
　　2部　哲学対話（ワークショップ）
　　ファシリテーター：NPO 法人こども哲学・おとな哲学アーダコーダ　幡野氏（ZOOM参加）
　　参加者：長谷虎紡績　長谷代表、ヘラルボニー　安藤氏、
　　麗澤瑞浪中学・高等学校　藤田校長、高校2年生有志13名

第2部では哲学対話という手法を通して、「ダイバーシティ＆インクルージョン」と向き合います。
哲学対話では、大きく3つの力が育まれます。

1つ目は、身近な物事に対して疑問を持ったり、違和感を持つ姿勢。
2つ目は、自分の考えを“私は”という主語で話せること。
3つ目は、自分とは違う価値観や考えを認め、聞くことができる力。

それぞれの「個」を尊重し、認め合い、お互いの良いところを活かし合うという「ダイバーシティ＆インクルージョン」について考える際、まさにぴったりの手法です。
大人も子供も、男女も関係なく、参加者全員で「ダイバーシティ＆インクルージョン」という正解のない問いについて、深く考える時間にします。

ヘラルボニー　長谷虎紡績株式会社　麗澤瑞浪中学・高等学校
Reitaku Mizunami Junior and Senior High School

CONCEPT 麗澤瑞浪の皆さんへ

「あなたは、あなたのままで、すばらしい！」

ヘラルボニーとの出会いをきっかけに、この言葉を皆さんに伝えたいと思いました。

みんなで一斉に同じことをやる環境にいると、知らず知らずのうちに他人と比較して、悩んだり苦しんだりすることがあります。仲間と切磋琢磨することは、とても貴重な経験であることは間違いありません。ただし、できない自分を責める必要はありません。人それぞれに、得意な分野や苦手な分野があるのですから。

人間は、私たちが思っている以上に複雑な生き物です。例えば、人類最速と言われるように、とても速く走れる人もいれば、走ることが苦手な人もいます。暗算が得意な人もいれば、苦手な人もいます。絵がうまい人もいれば、苦手な人もいます。そもそも比較する必要があるのでしょうか。自分の好きなこと、得意なことを最大限に伸ばして、世界に貢献すると考えたとき、さまざまな「好き」や「得意」がある方が、世界が豊かになると思いませんか。

人間には、ある程度共通する特性があったとしても、程度によってグラデーション的な差があるのが当然なのです。しかし、それを十分に理解していないと、何かを克服しようと努力している相手に対して、自分の考えを押し付けてしまう可能性があるので注意が必要です。また、自分と同じ悩みや課題を抱えているように見えても、実は人それぞれで違う困り方をしている可能性があるのです。

社会では、グローバル化が進む中で、「ダイバーシティ＆インクルージョン」という考え方が広く浸透してきたように感じています。性別、国籍、年齢、障がいなどの外面的なことや、ライフスタイルや価値観などの内面的なことに関わらず、それぞれの「個」を尊重し、認め合い、お互いの良いところを活かし合うという考え方です。

ところが、自分とは異なる背景を持つ人々に対する不安や恐怖心を持つ人は、未だに多く存在しています。その結果、地域や文化の主流とは異なる考えや価値観を持つ人々を軽視したり、排除したりする悲しいできごとも起こります。同じような考えや価値観の人ばかりが集まる社会は、変化に対応する柔軟性は乏しく、イノベーションは生まれにくくなります。自分とは異なる個性を認め合うことは、社会が抱える多くの課題を解決するためには欠かせないことなのです。

今後、ますますグローバル化は加速していきます。本校から巣立っていく皆さんが、「世界で活躍する日本人」になるためには、「異質な他者とうまく関係を取り結び、自分なりの役割を果たしていく」ことが求められます。多感な中学・高等学校の時代にこそ、自分とは異なる価値観や考えを持った人に囲まれ、深く関わり合う経験を大切にしてください。皆さん一人ひとりが、自分とは異なる他者への共感性を高めていけば、多くの人を包み込むことができる寛容性が生まれ、優しい社会が実現できると思います。

今回の企画・作品との出会いをきっかけとして、今後はこれを読んだあなた自身が、誰かに対して、「あなたは、あなたのままで、すばらしい！」と心の底から言えるような人に成長してくれることを願っています。

麗澤瑞浪中学・高等学校
校長　藤田知則

GREETINGS FROM ALUMNI 卒業生の想い

この企画は、長谷虎紡績の長谷さん、ヘラルボニーの安藤さんが、麗澤瑞浪の卒業生であることをきっかけにスタートしました。麗澤瑞浪という縁でつながった2社1校で、「生徒のために」、「社会のために」、何か有効な情報発信ができないだろうかと考えました。

最初のメッセージに加えて、皆さんに伝えたいことが2つあります。1つ目は、「ご縁」や「人のつながり」を大切にして欲しいということです。人とのつながりは、あなた自身の人生をとても豊かにしてくれます。2つ目は、世の中にはまだまだ自分が知らないことがたくさんあります。ぜひ、あなたの好奇心のままに、新しい学びに積極的に挑戦して欲しいということです。新しい世界を知ることは、自分自身の可能性を広げることにつながっています。

今回の企画は、教育後援会、麗澤校友会、みずこう麗澤会より、多大なるご支援をいただき実現することができました。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。

麗澤瑞浪中学・高等学校 校長
藤田 知則

長谷虎紡績株式会社
HASETORA SPINNING CO.,LTD.

私たちには一人一人、違いがあります。誰一人として同じ人は居ません。人と違うことはとても素晴らしいことです。そして、私たちがより良く生きるために大切なことは、お互いの違いを知り、認め合い、尊重し、その違いを活かし合うことです。これは個人も組織（学校、企業、社会）も同じです。

今回、麗澤瑞浪×ヘラルボニー×長谷虎紡績でとても素敵なコラボが実現しました。このコラボは、世の中を少しでも良くしたい、人を笑顔に幸せにしたいという、純粋な小さな思いからスタートし実現しました。どんな小さな思いにも大きな力があります。世の中を変えるすごい力を秘めています。これから社会に出る皆さん、それぞれの持つ違いを大切にして下さい。そして、皆さんの中にある思いを大切にして下さい。

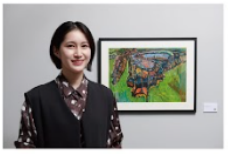
皆さんにはすごく大きな力と可能性があります。その可能性を信じ、世界で異彩を放って下さい！心から応援しています。

長谷虎紡績株式会社　代表取締役社長
長谷 享治
（1998年　麗澤瑞浪卒業）

ヘラルボニー

私が学生だった頃を思い返すと、他人の目を気にして障害のある姉のこと周りに伝えられなかったり、また、誰かの意見を押しのけてでも自分のやりたいことを選ぶ勇気がありませんでした。そしてそれは、本当にやりたいことを実現できる自信がなかったからだと思います。ですが、私はヘラルボニーが掲げる「ちがいに、リスペクトを」という言葉に出会い、私が私であることに意味があると感じ自信を持つことが出来ました。

みなさんも仲間と過ごす日々の中で、自分が人と違うことで悩むこともあるでしょう。そんな時には人と違うことを嘆いたり、人と違うことで誰かを傷つけるのではなく、視野を拡げて、違うことに豊かさを感じてみてください。
ここ麗澤瑞浪で出会えた仲間との時間を大切にし、ご自身が満足できる、充実した学生生活を過ごしてください。みなさんのご活躍を心より楽しみにしています！



株式会社ヘラルボニー　広報PR
安藤 奈穂
（2016年　麗澤瑞浪卒業）

共同リリースのため、重複して配信される場合がございますが、あらかじめご了承ください。

【株式会社ヘラルボニーについて】

ヘラルボニーは「異彩を、放て。」をミッションに掲げる、福祉実験ユニットです。
日本全国の主に知的な障害のある福祉施設、作家と契約を結び、2,000点を超える高解像度アートデータの著作権管理を軸とするライセンスビジネスをはじめ、作品をファッションやインテリアなどのプロダクトに落とし込む、アートライフスタイルブランド「HERALBONY」の運営や、建設現場の仮囲いに作品を転用する「全日本仮囲いアートミュージアム」など、福祉領域の拡張を見据えた多様な事業を展開しています。これらの社会実装を通じて「障害」のイメージ変容と、福祉を起点とした新たな文化の創造を目指します。社名である「ヘラルボニー」は、知的障害のある両代表の兄・松田翔太が7歳の頃自由帳に記した謎の言葉です。「一見意味がないと思われるものを世の中に新しい価値として創出したい」という意味を込めています。

【長谷虎紡績株式会社について】

長谷虎紡績は明治20年（1887年）、創業者の長谷虎吉が「地域との共存共栄」、地域に産業を興し、地域の人を雇用し、より豊かな生活を送ってもらいたいという思いから、長谷虎紡績株式会社の前進となる長谷製糸工場を設立。現在の社長（享治）は5代目。「常に人の幸せ」を経営理念に創業以来、繊維に特化した事業を展開しています。ひとに一番近いプロダクト、「繊維」この繊維が今よりも快適なものになれば、私たちの生活は変わります。世界を変えることができれば、未来も変えることができます。私たちの紡ぐ繊維には、そんな夢と可能性があります。私たちの生活が変わるということは、世界が変わる。世界を変えることができれば、未来も変えることができます。私たちの紡ぐ繊維には、そんな夢と可能性があります。そんな思いから「素材で世界を変える」をテーマにした、環境配慮型経営に取り組んでいます。

【麗澤瑞浪中学・高等学校について】

麗澤瑞浪は昭和 10 年、創立者の廣池千九郎(法学博士)が「道徳科学専攻塾」を開塾したことから始まります。自立、感謝、思いやりの心を育む中高一貫の私立学校です。豊かな自然環境の中、寮生と通学生が切磋琢磨しながらともに過ごし、人としての成長と高い大学進学率の両立を実現しています。『私の未来は私が創る』をキャッチフレーズに、世界で活躍できる日本人を輩出する進学校として5つの柱(探究学習・英語教育・寮教育・キャリア教育・ICT 活用)を軸に教育活動を展開しています。

問い合わせ先：株式会社ヘラルボニー　広報PR　安藤　Email: naho@heralbony.com　TEL: 080-7214-4616
長谷虎紡績株式会社　総務部　安田　Email: den-yasuda@hasetora.co.jp　TEL: 058-392-2121
麗澤瑞浪中学・高等学校　入試広報チーム　中西　Email: mz-reitaku@mz.reitaku-u.ac.jp　TEL: 0572-66-3111